

東山の森だより

【第 13 号】

発行：なごや東山の
森づくりの会
発行者：滝川正子
編集：広報班
発行月：2010年10月
(年2回発行)

くらしの森 里山エリア整備工事完成

なごや東山の森づくりの会 鬼頭 保



新里山の家

平成21年度から進められた「くらしの森」築造工事では、ため池、小川、畑、田んぼ、炭焼きのできる広場などが整備され、言い換えれば「里山」が完成し、そして去る9月24日、散策者の休憩所と東山の森づくり活動拠点施設として共用する形で「里山の家」が新築開館しました。またこれも市と共有する形で森づくり活動に必要な倉庫「作業棟」もできましたが、振り返ればここに至るまでの道のりは並大抵ではありませんでした。

「東山の森づくり」の始まりは、1979年、平和公園南部(現・くらしの森)の雑木林を破壊して、オリンピックスタジアム候補地となることに反対を唱えたことがきっかけでした。

その後、自然観察会や調査活動を現地で行ってきた野鳥、植物、昆虫など様々な分野に精通した市民および専門家など多くの諸先輩たちの四半世紀に亘るご尽力によって「名古屋新世紀計画 2010」への提案(東山の森の将来像を、市民と行政の間で共有して森を守り育てていこうというもの)が具体化して、平成15年、名古屋市の市議会の了承を得て、「なごや東山の森づくり基本構想」として策定・公表されました。

市民・行政協働によって策定した「なごや東山の森づくり基本構想」の実現に向けた活動は、「人と自然の生命輝く東山の森づくり～森づくりから共生型社会の実現をめざす～」を基本理念に、また「協働して魅力豊かな森づくりを進める」の基本方針を継承して、平成16年2月、これまで東山の森で森づくり活動や観察会、調査活動などを行ってきた市



田んぼ



手前は炭焼窯・奥は畑

民団体が統合して当会「なごや東山の森づくりの会」が設立され現在に至っています。この基本構想実現の動きは、行政の財政難の理由などで先送りされていましたが、幸いにして「東山動植物園再生プラン」と相まって、またCOP10開催が追い風となって、ようやく基本構想の実現に向けた一歩が踏み出されました。

しかし「里山」が完成、「里山の家」が開設したとは言え残された課題は多々あります。それは大掛かりな工事だったために天地をひっくり返した様

になったこの里山エリアをどの様につくり上げていくのか。整備されたため池への魚類など生き物の持ち込み、水辺植物や水草、裸地への移植樹種の選択問題等々、地域固有の自然環境づくりへの取り組みが急がれます。また畑、田んぼ、炭焼き活動も手探りで始まったばかりですが、芋掘り、稲刈り、餅つき、門松・注連縄づくりなど市民とともに「里山暮らし体験」が恒例的にできる仕組みづくりも必要です。「里山の家」を如何に効果的に利用していくのか。ただ単なる休憩所としてではなく、身近な自然や里山の大切さが楽しく学べ、次世代に森の大切さと素晴らしさを伝える役割も欠かせません。今回の事業において、散策路変更、せせらぎの川幅や蛇行のあり方、アシ原・湿地再生などの施工に関して、市民意見と行政意向の隔たりが多々発生し、その度ごとに検討会や現地立会いを幾度も行なって解決してきた経緯があります。この貴重な体験を生かして、名古屋の貴重な財産である「東山の森」を市民・行政協働で守り育てて行きましょう。



手前は大坂池・奥は里山の家

【東山の森の生き物たち】

■葛とウラギンシジミ

小笠原 芳夫

夏になると荒地などを覆いつくして繁茂する草に「葛」があります。夏の終わり頃にこの赤紫色の葛の花を探して歩くと、時々この花にそっくりな虫が隠れていることがあります。これは「ウラギンシジミ」という蝶の幼虫でさわるとお尻のあたりから線香花火のようなものを出したりして面白いものです。この幼虫を持ち帰って育てると、やがて緑色で背中にスベード形の模様がある蛹になります。羽化した蝶は裏が銀色で、表は黒地にオスは赤・メスは白のきれいなものです。秋によくみる銀色の素早く飛ぶ蝶がこの蝶です。来年の夏には葛の花を探してみると面白いかも？



■カラスウリのひみつ

永柳 道枝

カラスウリの花は夏の夜、人知れず白い神秘的な花を開く蛾等の昆虫はこの花に引き寄せられ「お花」の花粉を「め花」に受粉する手助けをする。花は朝にはしぼんでしまい受粉したカラスウリは子房がふくらんで実になり、秋になると赤く色づきそしてつるを伸ばしていく。

もう一つのひみつはつるを伸ばし、つるの先端が地面に届くと地中にもぐり込みイモができる。こんな子孫を残す方法も持ち合わせた強物でもある。さて「赤い実」なのになぜ「カラスウリ」？実は苦くて食用にならずカラスも食わず、役立たずの意味でつけられたようです



【子どもを育む】

■森で育つ子どもたち

今尾 由美子

三歳になる孫によく「ばあばあ 森へ行こうよ」とさそわれます。落ち葉の上を音をたてながら歩いたこと、せせらぎの小川に石を投げてあそんだことなど、楽しかった思い出がたくさんできました。子どもにとって森はなんども行きたくなる魅力的なところのようです。ドイツや北欧には、自

然の中での幼児教育や保育に共感する人々が作った「森のようちえん」があります。石亀泰郎さんは子どもたちが小さな好奇心を自分自身で満ち、生き生きとした姿を写真されています。森は子どもたちの成長を助ける大切な所となっています。日本でも「森のようちえん全国ネットワーク」が発足し、広がりを見せています。『虫捕る子だけが生き残る』養老孟司・池田清彦・奥本太三郎の本に感銘を受けました。《数ある遊びの中でも虫取りがなぜいいかというと、それはほぼ理想的に脳が回転するからです。虫を見て、「いた!」と思ったら、筋肉を動かして捕まえて、自分で調べて標本を作って、考える》《子どもをまともに育てようと思ったら、自然の中がいちばんいい、人間はもともとそうやって生きてきた》このような森とのふれあいが大切であると思います。



■子どもたちの声(2、5、6、8月の子ども東山の森づくり隊活動の子どもたち感想の一部を掲載)

2月

ひさしぶりに森づくりができてとても楽しかったです! これからも よろしく願います

豚汁もおいしかったです

竹の葉 クッションも 気持ちよかったです

コナ

小6年 女

夏の暑三角形を見れてとてもうれしかった。

8月

小3年 女

5月

小5年 男

6月

小5年 男

8月

小1年 男

載らなかった子どもたちごめんね!!

【森で汗をかこう】

■定例、班活動の紹介(各班よりの投稿)

平成 22 年度総会

平成 22 年 5 月 15 日(土) 18:00 ~ 20:30 東山コミュニティセンター

総会出席者数 出席者 38 名 委任状 59 名 合計 97 名 会員数 121 名

議事 第 1 号議案、第 2 号議案、第 3 号議案、第 4 号議案、第 5 号議案共に議決されました。

定例活動

鬼頭 保

毎月第 1 日曜日 10:00 ~ 15:00(7 ~ 9 月は 9:00 ~ 12:00)

活動エリア: 偶数月 = 「くらしの森」 奇数月 = 「ふれあいの森・いのちの森・うるおいの森」

9 回実施 延参加人数 449 名

暴風雨警報が発令されていない限り決行する誠に酷な活動です。時には雨天の中、猛暑の炎天下、さらには蚊の襲来に耐えながら・・・でも毎回平均 50 名もの参加をいただいたことに、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。作業内容は、雑木林の手入れ、湿地再生、竹やぶの手入れ、草刈りなど様々な活動ですが、その成果は着実に表れていきます。皆さまの引き続きのご参加をお願いいたします。



班活動

平和公園里山班

馬田 邦夫

毎月第2、第4日曜日 活動エリア：「くらしの森」
2年前、生涯学習センターで東山の森講座を受講しました。森づくりの会員の方より都心に残る貴重な東山の素晴らしさ、手入れの必要性、森の楽しさ等を学びました。以来、平和公園里山班を主に森づくりに参加しています。木々や草花の知識は無いので間伐や下草刈りにも先輩に聞きながら楽しくやっています。散歩の途中作業した所を通ると少しは里山づくりになっているように思え嬉しくなります。



堆肥づくり

東山公園南部里山班

滝田 久憲

毎月第4土曜日

活動エリア：「いのち森・うるおいの森」

東山南部里山班の活動の原点は、1980年代中頃に東山の森で行われていた市民による湿地の保全活動です。当時、この活動の中心になっていたのが自然観察指導員であったことから、多くの市民のこの活動への参加を促すために、この湿地の保全活動の後で自然観察会を行なうようになりました。当時は、東山換気塔南にあるヤチヤナギの湿地の再生が主な活動でした。東山の森に残された湿地を保全し、後世に残すという考え方は現在の班活動にも引き継がれています。



湿地の手入れ

竹くらぶ

三村 由江

毎月第3木曜日 活動エリア：「くらしの森」

竹くらぶは、平和公園南部「くらしの森」エリアにある竹藪の間伐し明るい竹林にしようと活動しているグループです。竹は手入れをしなければ竹藪になってしまいます。手入れをすれば竹林浴散策のできる癒しの場としての竹林に甦ります。数年後に立派な竹林になる事を期待しながら、地道な作業を続けて行きます。私たちと一緒に活動しませんか？

メンバー募集中！



カンチクの手入れ

こども東山の森づくり隊 坂野 静雄

なごや環境大学「共育講座」として2月13日(土)、5月8日(土)、8月7日(土)の3回実施 参加人数 241名

2月は3年前よりドングリから育てた苗木を、平和公園里山班の協力により、約60本を移植しました。子どもたちは新しく出来たせせらぎから水を汲み、楽しそうに苗木にかけていました。5月は子どもと付添者が声を掛け合いながら、人間地獄で時間を忘れよじ登っていました。



ドングリの苗木が1mほどに成長しています

また、天白溪湿地では幸運にもギンヤンマの羽化が見られた人達は感激していました。8月はナイトハイキングで夕暮れ時、コウモリの発する超音波を受信機で捉え、餌を捕える時の音の変化を聞き、みんな興味津々でした。また、草の上に寝転がり素晴らしい星空を楽しみました。今年度は11月13日(土)とH23年2月12日(土)の実施予定です。

炭焼班

松田 幸久

不定期 活動エリア：「くらしの森の炭焼広場」
炭焼き班近況



炭焼窯の火入れ

出来ました！そして、壊しました！ 8月22日に出炭し見事、160kgの炭を作りました。初回は、失敗しましたが、今回は、まずまずの出来(自分に甘い?)。畑に、田んぼ、そして、森の土壌改良、せせらぎの水質浄化。出来た炭の使い道は、盛りだくさん。活動後のBBQも楽しみ！ところが妥協を許さぬ炭焼き軍団！この程度の出来には、満足できず、炭窯の天井部を木っ端みじんに破壊。窯の再生に向けて、再スタートしました。



田んぼ班 **内藤 豊**
不定期 活動エリア：「くらしの森の田んぼ」

この田での作業は、思ったより順調。7月下旬で稲の草丈は40cm。気になることは「メイガ」がちらほら出現。殺虫剤を使うべきか? 「ひえ」も稲より元気なので、気づきしだい抜いている。あと、水入れ、水抜きが順調にできるよう、見回りをひんぱんにし、水路を掘ったり、バケツでの水のかき出しをしっかりとやりたい。



稲穂が頭を下げています

畑班 **廉岡 省三**
不定期 活動エリア：「くらしの森の畑」

私は8年余り長閑な処で野菜作りを経験しました。休耕畑で最初の2~3年は雑草と苦闘し土作りをして種を蒔き育み採れ採れを食した感動を今も思い出します。想定外の妻の病気で田舎暮らしを切り上げ、平和が丘に住居を構えて平和公園を散歩する日々となり、この素晴らしい環境を維持したいなあとの思いが募りました。私達の健康な暮らしは自然と関わりたく今回畑班で里山の風景に安らぎと安心安全な作物を育み五感で喜びを共有したいと思った次第です。



堆肥入れ

サツマイモ元気です

調査活動班 **滝川 正子**
不定期 活動エリア：東山の森全域

東山新池は1987年に雨水貯留事業として護岸・浚渫工事が実施され現状の姿となり、その後、スイレンが投入されました。このスイレンの除去作戦として早春に池底に遮光シートを敷いて成長抑制実験をしています。写真中央水面は、3月からの遮光シートでスイレンの生育抑制がされた。また、なごや環境大学の講座として、年2回の灯火採集による虫の生息調査を実施しています。灯火採集をした翌日は展翅をして標本を作ります。東山の森がいつまでも豊かな森であり続けるために調査は大事な活動です。写真 年2回の灯火採集による虫の調査も5年目になりました。



* 各班の集合場所、活動時間などの詳細は当会ホームページ「活動予定」で案内しています。積極的な参加をお待ちしています。

